

平成24年7月20日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号: 4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
 (TEL: 078-302-7075)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成24年12月期通期（平成24年1月1日～平成24年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正内容

1) 平成24年12月期第2四半期連結業績予想の修正（平成24年1月1日～平成24年6月30日）

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	327	△221	△204	△209	△3,575.25円
今回修正予想 (B)	256	△236	△218	△224	△3,825.77円
増減額 (B-A)	△71	△14	△13	△14	
増減率 (%)	△21.7	—	—	—	
(参考) 前期 (平成23年12月期) 第2四半期累計実績	312	△187	△129	△205	△3,502.25円

(参考) 個別業績予想の修正

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	293	△215	△198	△203	△3,466.16円
今回修正予想 (B)	234	△217	△200	△206	△3,517.15円
増減額 (B-A)	△59	△2	△1	△2	
増減率 (%)	△20.1	—	—	—	

2) 平成24年12月期通期連結業績予想の修正（平成24年1月1日～平成24年12月31日）

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	840	△275	△259	△266	△4,538.07円
今回修正予想 (B)	728	△305	△289	△296	△5,058.14円
増減額 (B-A)	△111	△30	△29	△30	
増減率 (%)	△13.3	—	—	—	
(参考) 前期 (平成23年12月期) 通期実績	592	△393	△340	△361	△6,159.97円

(参考) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	755	△275	△259	△266	△4,540.30円
今回修正予想 (B)	649	△292	△276	△283	△4,833.32円
増減額 (B-A)	△105	△16	△16	△17	
増減率 (%)	△14.0	—	—	—	

2. 業績予想修正の理由

平成24年2月10日発表の平成24年12月期通期の連結業績予想において、創薬支援事業の売上高を740百万円、創薬事業の売上高を100百万円、全社で840百万円を見込んでおりましたが、創薬支援事業の売上高予想を628百万円、創薬事業は変更なしの100百万円、全社で728百万円に修正いたします。

セグメント別に売上高の修正予想を示すと、次のとおりであります。まず、創薬支援事業においては、地域別の売上高予想について、国内市場では、前回公表予想を4百万円上回る351百万円（前連結会計年度比66百万円増）といたしました。北米市場については前回公表予想を75百万円下回る166百万円（前連結会計年度比12百万円増）といたしました。欧州につきましては、前回公表予想を30百万円下回る86百万円（前連結会計年度比14百万円増）といたしました。その他地域は、前回公表計画を10百万円下回る23百万円を予想しております。今回の業績予想の修正では、国内においては、製薬企業との年間契約等による地の利を活かした安定的な売上確保が継続的に見込まれることから大きな変更はございません。今後も継続的に当社の直販体制を堅持するとともに、広域代理店の積極的な活用の中、当社製品、サービスのさらなるシェア拡大に取り組んでまいります。北米及び欧州地域においては、製薬企業における研究所の統廃合が活発化しており、特に北米地域では当社グループの顧客減となって現れてきております。現在、顧客との販売ネットワークの再構築に取り組んでいる最中であり、相応の時間が掛かるとの認識から売上予想を下方修正いたしました。欧州地域においては、徐々に売上の伸びを示していることから、研究拠点の統廃合の影響を最小限に留めつつ、今後も売上拡大に取り組んでまいります。その他地域では特に中国における販売代理店の整備に注力し、売上拡大に取り組んでまいります。

製品別では、今後当社グループが強化しようとしているセルベースアッセイサービスへの顧客からの関心が高く、国内において本年7月に開催した当社主催セミナーでの反響も大きいことに加え、北米の顧客への個別アプローチにおいても高い興味を示していただいていることから、今後の売上拡大に寄与するものと考えております。既存のキナーゼタンパク質製品、サービスの商品力、販売力強化に加え、これら新サービスの拡販を通じて、売上高の拡大に取り組みます。

また、創薬事業においては、売上高の業績予想に変更はありません。引き続き当社の医薬品候補化合物のライセンスアウト活動を推進し、契約一時金等の収入を獲得してまいります。

以上の結果、平成24年12月期通期の連結業績予想について、売上高を前回公表予想に比べ111百万円下回る728百万円（前連結会計年度比135百万円増）に修正いたします。損益面については、諸経費の節減に最大限努め販管費を圧縮していく方針を堅持し、前述の売上高の減少があるものの、営業損益は30百万円、経常損益は29百万円、当期純損益は30百万円それぞれ前回公表予想に比較して悪化することとどまる見込みであります。

なお、個別業績予想の修正につきましても、連結業績予想の修正と同様の理由によるものであります。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上